

《巻頭言》

会員増強で士会の活性化を！

(一社)神奈川県建築士会会長 金子 修司

令和元年度通常総会において、3期目の会長をお受けすることとなりました。

神奈川県建築士会にとっての最大の課題である会員減少について、効果的な対策は容易ではない現状ですが、会員各位のご協力を願って解決への道を模索してゆく覚悟です。会員の皆様のさらなるお力添えを期待いたします。

建築士は建築の専門家として社会に対する責任を果たし、安全で安心な社会の実現に努め、このことにより社会からの信頼を獲得し、リスペクトされる存在となることは繰り返し申し上げてきたところです。残念ながら耐震偽装事件等により社会から厳しい批判も受けましたが国家資格者としての誇りと責任を再認識したいと考えます。

近年異常気象による被害や、地震災害の多発等で安全安心への関心が高まっております。さらに高度成長期、人口急増期に建設された多くの建築物の維持保全、建替え等への対応や環境問題、バリアフリー等、魅力ある専門職としての建築士の職域には市民から大きな期待が寄せられているものと確信しています。また職能団体としての建築士会の果たすべき役割への期待も、大きなものがあります。

地域支部や各種委員会の活動もそれぞれが地域との連携を深め、社会貢献的な活動を通して建築士の存在をアピールしていますが、こうした努力がよりの確に建築士一般や市民に伝わり、評価を得られるよう体制を整える必要があります。

建築士会の委員会体制は16年前の再編以降、ほぼ固定していますが、時代は大きく変わりました。そこで今年度、士会組織の再検討に着手・実行します。再編検討の

特別委員会を立ち上げ根本的な問題を洗い出し、共有することにより、活性化への具体案を提案し、より魅力ある士会の実現を目指します。是非ご意見等お聞かせください。



本会の会員数は平成30年度末の時点で2,658人です。県内の建築士の数は約6万人程度と言われております。会員数の目標を建築士数の5%つまり3,000人と定め、建築士会の発信力を高め、社会的プレゼンスを高めたいと考えております。当面の目標は会員数の減をプラスに転ずること、つまり純増を目指します。

一方で退会を防止することも大きな効果を生みます。退職等により建築士会から退会するケースを見かけますが建築士としての活躍の証として是非とも生涯にわたり建築士会の会員でいて頂きたいと考えます。シニア活躍の多くのステージを用意しておりますので、是非ともご参加ください。

私達建築士は専門家として倫理を守り、技術の研鑽を怠らず品位を保って業務を通じて地域社会への貢献を行います。士会の会員であることを誇りに思い、社会から信頼され、リスペクトされる立場にある素晴らしい専門家です。誇りを胸に一生の資格である建築士で建築士会の会員でいてくださることを願います。

一人でも多くの会員が入会され会員であり続けることが、建築士会の更なる活性化に繋がるものと信じています。

新しい元号「令和」となったこの5月、令和元年の通常総会が本会及び各支部において行われました。本 SALON 92 号では令和元年度の総会特集として、本会及び各支部の総会の開催状況と、それぞれの総会後に行われたさまざまな講演会や懇親会等の状況を報告します。

令和元年度（一社）神奈川県建築士会通常総会

平成から令和に変わった初めての通常総会、令和元年度（一社）神奈川県建築士会通常総会は、令和元年5月29日（水）午後2時から神奈川県建設会館2階講堂において、1,129名（総会出席93名、委任状1,036名）の出席を得て開催されました。

総会に先立ち、恒例となった関東甲信越建築士会ブロック会 平成30年度優良建築物の神奈川県受賞作品の表彰が行われました。受賞作品は『地形の残像』、受賞者は岸本和彦さんです。



受賞者の岸本氏

その後、通常総会に移り、金子修司会長は総会冒頭の開会の挨拶にあたり、「新たな時代を迎えて、神奈川県は建築界は盛況にあるように思われるが、社会の状況は大きく変わりつつあり、建築士にはますますより高い資質と能力が求められているようになってきている。会員のみなさんとともに引き続き会員の増強に力を入れるとともに、様々な団体から信頼され頼りにされる『会員力を引き出す組織づくり』を進めていきたい」旨の決意を述べました。

本年度は、会場からの推薦により総会の議長に佐藤里紗・前湘南支部長が、また議



佐藤前支部長



通常総会会場

事録署名人に大川友理枝理事、小渡佳代子監事の2名が選任され、事務局より定款に基づき総会が有効に開催されることを確認したのち、議事に入りました。

本年度は、通常の議題である過年度の事業報告・会計報告及び決算監査報告等に加え、今春行われた理事選挙の結果をもとに選任された理事選任案、会長・副会長及び専務理事候補の推薦案、相談役の推薦案が議題として提案されています。審議の結果、理事30名（支部推薦9名、選挙結果11名、会長推薦10名）、監事3名の選任が承認され、議案通り理事の中から金子会長、渡邊副会長、長田副会長、上原副会長がそれぞれ正副会長として再任されました。また、これまで事務局長兼専務理事としてご活躍いただいた須藤事務局長の退任に伴い、今春新たに赴任された宮林事務局長が専務理事として、さらに本会の元副会長の大川友理枝氏が新たに相談役として就任することが承認されました。

引き続き報告事項として令和元年度の事業計画と収入・支出予算案等の報告に移り、そのうち本年度の重点事業として「1 シニア事業の実施」と、引き続き「2 会員増強」に取り組んでいくことが報告されました。会員増強事業においては、『会員力を引き出す組織づくり』に向けて、支部、委員会の見直しを行うこ

ととし、支部の活性化、委員会の定款に沿った機能性と目的の明確化を打ち出すことで進めていく」ことが謳われています。なお、委員会の見直しについては、現在増強担当で検討しているものをたたき台として、今後精査していくこととされています。更に令和元年度の新たな取組みとして、①『人が感じる境目としての建築』をテーマとした「感境建築コンペ」の実施と、②令和4年(2022年)に迎える本会の創立70周年の記念事業の準備として「続かながわ建築ガイド」の編纂準備を進めていくことが盛り込まれています。

また、収入・支出予算では、昨年度の決算結果を受けて若干の収入減を見込むものの、事業活動支出は前年度同様を見込んでおり、引き続き様々な士会活動を支援していく予算となっています。一方で単年度の黒字計上を見込みながらも、次期繰越収支差額が減少していることから、事業活動を更に充実させていくためには、収入の大部分を占める会費収入の安定的な確保を図ること、すなわち会員増強等の働きかけが重要かつ喫緊の課題であることが予算上も明らかになっています。

そのほか、事務局長兼専務理事としてご活躍いただいた須藤氏から退任の挨拶とともに、これからの本会の発展を祈念し本会事務局に託す言葉をいただき、総会出席者一同から、これまでの須藤氏のご尽力を感謝しねぎらう温かい拍手でお応えしました。



退任の須藤氏

その後、出席者からの質疑応答や意見等の発言を経て、総会は滞りなく終了しました。

総会に引き続き、16時から横浜メディアセンタービル1階のハーバース・ダイニングで令和元年度通常総会懇親会が行われました。官公庁や関係団体から多数のご来賓をいただくなか、芝京子総務企画委員長の司会進行で110名の参加をもって賑やかに開催されました。

乾杯に先立ち、来賓を代表して神奈川県県土整備部

庄司博之住宅部長及び今年度から新たに就任された横浜市 黒田浩建築局長からご祝辞とご挨拶をいただきました。ご挨拶のなかで庄司部長からは、建築士法の改正による建築士試験の受験資格の緩和が、業を営むわたしたち建築士などに与える影響について、また黒田局長からは、昨今建築を巡るさまざまな事象が発生する中、市民の命と日々の生活を守る建築行政の取組みと建築士との連携の重要性についてお話をいただきました。



庄司部長



黒田局長

懇親会は(一社)神奈川県建築士事務所協会の白井勇会長の乾杯で始まり、参加された新入会員の紹介ほか、賛助会員の紹介とひとことを交えながら、会員相互の和やかな談笑と懇談のうちに進み、18時の(公社)日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会 田井勝馬副代表の中締めまでのあいだ、楽しいひと時を過ごすことができました。



神奈川県建築士会の会員数

| | 会員数 |
|------|-------|
| 正会員 | 2,585 |
| 準会員 | 7 |
| 賛助会員 | 54 |
| 特別会員 | 12 |
| 合計 | 2,658 |

(H31.3.31 現在)

令和元・2年度の理事、監事をご紹介します。（敬称略）

◆理事（会員外を含む）30名

(1) 支部推薦による理事 9名

| | | |
|-------------|-------------|----------------|
| 平井 毅（横須賀支部） | 矢野 高（中支部） | 櫻井 泰行（小田原地方支部） |
| 金子 成司（川崎支部） | 石井 明（相模原支部） | 西方 正之（県央支部） |
| 梅澤 典夫（湘南支部） | 渡邊 一郎（横浜支部） | 庄司 博之（県庁職域支部） |

(2) 選挙による理事 11名

| | | |
|---------------|---------------|-------------|
| 金子 修司（横浜支部） | 雨森 隆子（横浜支部） | 伊藤 誠一（県央支部） |
| 村島 正章（県庁職域支部） | 芝 京子（小田原地方支部） | 小笠原 泉（横浜支部） |
| 長瀬 光市（湘南支部） | 東 二郎（県央支部） | 上原 伸一（川崎支部） |
| 玉野 直美（横浜支部） | 長田 喜樹（県庁職域支部） | |

(3) 会長推薦による理事 10名

| | | |
|---------------|--------------|-------------|
| 茶谷 亜矢（横浜支部） | 赤川 真理（川崎支部） | 水田 敏弘（湘南支部） |
| 有泉 ひとみ（相模原支部） | 村山 勉（川崎支部） | 山成 芳直（横浜支部） |
| 内山 勝麗（横浜支部） | 太田 真理子（横浜支部） | 有泉 絵美（横浜支部） |
| | | 宮林 正彦（会員外） |

◆監事 3名

| | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 小川 嘉一（県庁職域支部） | 長井 邦夫（横浜支部） | 折笠 幸男（川崎支部） |
|---------------|-------------|-------------|

◆理事

会長

金子 修司



副会長・横浜支部長

渡邊 一郎



副会長

長田 喜樹



副会長

上原 伸一



横須賀支部長

平井 毅



中支部長

矢野 高



小田原地方支部長

櫻井 泰行



川崎支部長

金子 成司



相模原支部長

石井 明



県央支部長

西方 正之



湘南支部長
梅澤 典夫



県庁職域支部長
庄司 博之



雨森 隆子



伊藤 誠一



村島 正章



芝 京子



小笠原 泉



長瀬 光一



東 二郎



玉野 直美



水田 敏弘



茶谷 亜矢



赤川 真理



山成 芳直



有泉 ひとみ



村山 勉



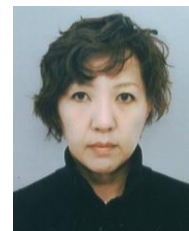
有泉 絵美



内山 勝麗



太田 真理子



専務理事
宮林 正彦



◆監事

小川 嘉一



長井 邦夫



折笠 幸男



総会特集

横須賀支部

新たな旅立ち

小山 美智恵

令和の時代の幕開けと共に、4期8年間の長きに渡り横須賀支部をまとめてくださった加藤清支部長から平井毅新支部長にバトンが手渡された総会となりました。



通常総会の風景
5月24日(金)18:00～
於ヴェルクよこすか第1会議室

三役には加藤雄治副支部長の他、新たに比護友一副支部長、山田夏江副支部長、会計に鈴木玲成氏、幹事に新メンバーも加わり、新体制でスタートを切ることとなりました。

通常総会が無事終了した後の懇親会では、加藤前支部長への花束贈呈を行うというサプライズもあり、ご来賓の皆様や会員相互に親睦を深めることができました。



懇親会の風景
平井支部長より加藤前支部長へ
花束贈呈

二次会にも多くの方が参加してくださり、建築士事務所協会、ミーズ設計連合協同組合と三会の長が仲良く乾杯をするシーンも見られました。

最後は全員が肩を組み“サライ”を合唱するという盛り上がりを見せ、横須賀支部の明るい未来が垣間見えた気がします。



二次会の風景 “サライ”の合唱

中支部

令和元年度 通常総会・講習会

矢野 高

まるで夏の訪れを思わせるような暑さの5月25日(土)午後、ひらつか市民活動センターC会議室にて弊支部本年度の通常総会を開催しました。

役員11名、支部会員9名の出席(委任状40通)があり、役員改選、収支等、各議案とも滞りなく承認をいただき、議事を終えることができました。

本会からの来賓は上原伸一副会長にお越しいただきご挨拶を賜りました。

併催講習会は「住まいと照明のはなし」と題し、オーデリック(株)本社及び小田原営業所の方々を講師に住まいを計画・設計するにあたっての照明器具の基礎、器具選択のコツをわかりやすく説明していただきました。さらに最新のBluetoothを用いた住宅用照明器具の紹介と、質疑応答を交えての1時間半、他支部や会員の職場から参加された方もおり、有意義な講習となりました。



講習会の様子

総会・講習会を終え、役員や参加者有志でいよいよお楽しみ(?)の懇親会を平塚駅近くの居酒屋にて…折からの暑さの所為もあつてか、心なしか皆様ビールの消費も早かったようです。

土曜日の午後のひととき、お越しいただきました会員の皆様、来賓の上原副会長、また講習会をお引き受けいただきましたオーデリック(株)様にはこの場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。

一同、頑張ってます。支部所属会員の皆様には今後ともイベントにご参加いただき、中支部を引き続き盛り上げていただけましたら幸いです。

【令和元～2年度 中支部役員・相談役のご紹介】

支部長：矢野 高 副支部長：田中敦史／泉田美穂

会計：金子 孝／吉川卓也

監事：澤田晃一／齋藤 清

深谷美登里／滝口喜昭／内田幸夫／田中良明

相談役：石綿 誠(新任) (以上、敬称略)

小田原地方支部

令和元年度総会

櫻井 泰行

平成31年4月27日、おだわら市民交流センター UMECOにて。支部会員20名に加え、金子修司会長の参加を賜り小田原地方支部令和元年度総会が開催されました。

平成30年度はこれまで行ってきた支部旅行を見送ったことで令和元年度への持ち越し金額が大きくなりました。

令和元年度は小田原市と姉妹都市である栃木県日光市の建築士会との交流を企画しており、支部旅行を含めた交流事業を行うことを承認いただきました。

その他、建築の魅力を外へ発信する為に他団体との交流も積極的に行っていく事業計画となりました。



講演中の西村氏

総会後は一般社団法人アメリカ建築家協会日本支部副会長の西村恭史さんにお越しいただき、アメリカ建築家協会（AIA）の概要とワシントンDCで行われたリーダーシップ講習会について講演頂きました。西村さんは小田原地方支部の最も新しいメンバーでもあります。1時間30分ほどの講演の中にはAIAの事だけでなく西村さんの自己紹介等もあり、人柄が良くわかる大変良い講演会であったと思います。

新しい会員には総会の場で自己紹介をしてもらうことも良い方法であると感じました。

川崎支部

第57回通常総会

三宅 淳一郎

川崎支部の第57回通常総会が令和元年5月17日（金）、川崎フロンティアビルにて開催されました。

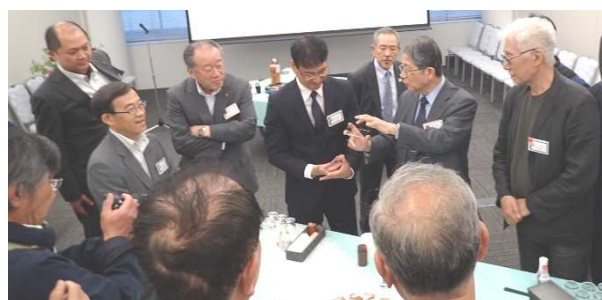
第一部では昨年度及び今年度の会務・事業報告と昨年度の会計報告、今年度予算について滞りなく進み、承認されました。また、支部役員の改選期に当たり、22人の役員と金子支部長・大川原副支部長・折笠副支部長・宇留間副支部長が選出され、新しいスタートを切ることとなりました。

第二部では毎年のようにノーベル賞候補に名前が挙がる東京理科大学栄誉教授・光触媒国際研究センター長の藤嶋昭先生に「建築と光触媒」をテーマにご講演頂きました。光触媒と言われるように光が重要です。光合成をイメージし葉の代わりにTiO₂（酸化チタン）を使用して水の中で光を当てるとガス（O₂やH₂）が発生したことが光触媒の研究の原点とのことです。光触媒には超親水性・酸化分解力・殺菌作用があるためコーティングすることにより汚れない外壁、曇らないガラスが実現します。丸ビルの外壁からはじまり、ハウスメーカーの外壁、手術室の内装、新幹線、自動車など多くの場所で使用されているようです。

先生は現在も光触媒国際研究センター長として一線で活動されており、今後はウイルスの除去、河川の水処理、エネルギー問題の解決（メタンを作る）へ研究を進めていくとのことでした。第二部司会の上原副会長以上の声の張りでの講演で、約1時間聞き入りました。また、質問も多くあり活発な質疑応答が行われました。



講演会後の集合写真



第三部（懇親会）開始前の藤嶋先生による実験の様子

相模原支部

総会と懇親会と

山口 義弘

令和元年5月23日（木）午後3時30分より、相模原支部の定期総会が行われました。会場は、昨年と同じ、相模原市中央区にあります「プロミティふちのべ」でした。JR 淵野辺駅から徒歩5分程度の便利な場所です。

定期総会は、来賓に一般社団法人 神奈川県建築士会副会長の長田喜樹様をお迎えし、相模原支部の会員14名（委任58名）が参加して行われました。



今期は、任期満了に伴う役員改選がありました。支部長、副支部長、事務局が交代します。上の写真は左より山口（新副支部長と新事務局）、石井（支部長、平成17～20年度支部長より返り咲き）、安藤（新副支部長）、田中（前期に引き続き会計）です。（後ろは前支部長の内沼）

その後「支部PRコーナー」として、この夏に開催されるイベントの紹介がありました。

恒例！ 相模原支部交流会 バーベキュー大会

日時：8月24日（土）10：45開始

場所：上大島キャンプ場（相模原市緑区大島3657）

ご友人やご家族、お子様も大歓迎です！

定期総会終了後は、会場を移動し、懇親会が行われました。神奈川県建築士事務所協会相模原支部副支部長の杉本勝郎様と相模原市設計協同組合代表理事の西倉哲夫様もお祝いに駆けつけて下さいました。終始和やかな雰囲気の中、出席者の懇親を深めることができました。

県央支部

更なる飛躍へ第一歩

東 二郎

5市1町村で構成されています県央支部総会が令和元年5月17日（金）第45回通常総会を開催いたしました。第一部は会員の為の身近に迫った「建築基準法改正について」と題し(株)日本 ERI 社による講習会を行いました。建築士法改正を初め、省エネ適合制度そしてガイドラインのお話をして頂きました。その後



支部総会を会員20名の参加を頂き、来賓に須藤専務理事を迎え行われました。椋康兵氏の司会で、原支部長を

議長に各議案の説明が滞りなく行われ、承認されました。本年度は役員改選期で6年間務めた原支部長が退任され相談役に、新支部長には西方氏が就任し、新しい船出となりました。県央支部は若手の役員が多く在籍しており、今回の改選は若返りの第一歩を踏み出した事になり、大いに将来が期待されます。総会後は同会場で懇親会が行われ、新役員の小川氏、再入会会員尾形氏、賛助会員で今回講習を行っていただいた ERI の方も交え行われました。前支部長に花束贈呈のサプライズがあり、「多くの良き仲間にも恵まれ、良き時を過ごすことが出来ました」と原氏より感謝の言葉がありました。私には長年支部を支え、重責より解放され安堵の表情に見えました、本当にお疲れさまでした。又新支部長より支部の伝統を守りながら、新しい事に挑戦し会員増強に努めたいとの、力強い言葉がありました。私も役員の一員として気を新たにいたしました。



参加者全員による近況報告があり転職の話あり、住み方改革の話あり、ビックリする事などもありましたが会員同士の親睦、交流、情報交換など交わす事が出来、賑やかに、終始和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことが出来ました。

湘南支部

第46回通常総会

湯本 敦

湘南支部第46回通常総会が5月17日（金）、藤沢商工会館（ミナパーク）で開催されました。第一部が勉強会、第二部が総会、第三部が懇親会のプログラムで進められ、総会には38名が出席されました。

第一部の勉強会では、桑山直子様より「空き家の現状と対策」をテーマにご講演をいただきました。空き家に関する問題や、空き家の適正な管理や利活用を促すための様々な方策等に関する講演内容は、最近身近に感じるようになった空き家の存在と課題について、改めて考える機会となりました。



勉強会 桑山直子氏

第二部の通常総会では、佐藤里紗議長による議事進行のもと、平成30年度の事業、会計、監査に関する報告及び令和元年度の事業計画案、予算案、支部規程の一部見直し、承認されました。



総会の様子

役員選出においては、梅澤典雄新支部長ほか新役員を選任が承認された後、新支部長より湘南支部活動への熱い思いのこもったご挨拶をいただきました。



梅澤典雄新支部長

来賓挨拶では、本会副会長の長田喜樹様より、滞りなく議事が進行したことへのお祝い及び支部活動へのエールをいただきました。

第三部の懇親会は、新会員の紹介もあり、和やかな雰囲気で行われました。新たな体制のもと、湘南支部の活動がより一層活発になるよう祈念しての閉会となりました。

横浜支部

総会報告

小笠原 泉

横浜支部の令和元年度第26回通常総会は、本年5月11日（土）に横浜情報文化センター6階情文ホールで開催されました。

総会は支部規程に則り渡邊支部長が議長となって滞りなく議事が進行し、各議案とも異議なく承認されました。



議事終了後、お招きした4名の来賓を代表して、今年度から横浜市建築局長に就任された黒田浩局長からご祝辞を頂きました。

支部総会に引き続き、同会場で恒例の記念講演会を開催しています。今年度の講演会は、『作品づくりと社会貢献の両立を目指して』と題して、建築界のノーベル賞と言われるプリツカー建築賞を2014年に受賞



し、現在世界的に活躍する坂茂氏が講演されました。講演は坂茂氏のこれまでの作品や、ポンピドゥーセンター内に設置したパリ事務所の様子、阪神淡路大震災以降の被災地に於ける支援活動の様子など、盛りだくさんの内容。その期待もあって、



今年度は支部会員のほか、小学生や中学生も参加しています。本会の金子会長をはじめ、会場からたくさんいただいた質問にひとつひとつ丁寧にお応えいただき、中学生からの「なぜ先生は建築家になろうと考えたのですか」等の質問には、自分の生い立ちや家庭環境のお話を絡めて笑顔でお応えされる場面も。

その後、会場近くで行われた懇親会には坂茂氏も参加され、多くの参加者と意見交換されるなど、和気藹々とした雰囲気的时间を共に過ごすことができました。



総会特集

県庁職域支部

支部総会と懇親会

近藤 均

県庁職域支部は、神奈川県、神奈川県住宅供給公社、(一社)かながわ土地建物保全協会に在籍している者及びそのOBで構成されている支部です。

去る5月14日にクルーズ・クルーズYOKOHAMAにて、令和元年度通常総会及び懇親会を滞りなく、かつ盛大に開催しました。

庄司支部長からの挨拶では、県庁職域支部のさらなる発展のためには、支部活動に積極的に参加してもらう工夫と、これから会員となっていく方との交流を深め、県庁職域支部の魅力を感じてもらうことが新規会

総会の様子



員の獲得にもつながっていくとの話がありました。

続いての懇親会では、本会からご臨席いただいた長田副会長より、建築士会における県庁職域支部の役割などについてのコメントを含めたご挨拶と乾杯のご発声を頂戴し、和やかな懇談が開幕しました。

会合においては、5月に発行した支部だよりの発表を行い、会員相互の親睦を深めることができ、若手、中堅、ベテランからOBまで、歓談の輪が尽きないところ、県OBである平山さんによる中締めをもって、懇親会も無事終了となりました。

懇親会の様子



関東甲信越建築士会ブロック会
平成 30 年度優良建築物表彰 受賞

湘南支部 岸本 和彦 氏
有限会社 acaa 建築研究所



令和元年度通常総会の開催に先立ち、関東甲信越建築士会ブロック会平成 30 年度優良建築物表彰伝達式が行われました。

ここでは、受賞者 岸本和彦さんのプロフィールと受賞作品をご紹介します。

■プロフィール

1968 年生まれ。早稲田大学理工学術院創造理工学研究科修了。1998 年（有）ATELIER CINQU 設立、代表取締役就任の後、（有）acaあ建築研究所に組織改名。2004 年～2014 年東海大学工学部建築学科非常勤講師、2004 年～2018 年東京デザイナー学院非常勤講師

■作品紹介

「地形の残像」

所在地：神奈川県横浜市中区
構造：木造
敷地面積：351.43 m²
延べ面積：211.65 m²



分離型の二世帯住宅です。世帯間の付かず離れずの距離感を実現するため、基礎工事による発生残土を利用して丘を築造し、丘の傾斜に沿って建つ風情を目指しました。それぞれの世帯はL型に向き合う様に並べて配置し、且つ丘による高低差が世帯間の視線に僅かな仰角を生む

ことで、L向き合う縁側間の距離感を増幅するとともに里山の様な懐かしい風景をも創り上げています。さらに世帯間には前庭と裏庭を繋ぐ起伏のある散策路を造りました。

前面道路の向かいには小さな公園があり、公園から前庭を経て裏庭へと繋がる草木のある庭の奥行きが、平坦な町並みに対して一石を投じるきっかけになればと願っています。



「三島スカイウォーク & 芹沢銈介美術館他」
 県央支部主催 バス見学会

県央支部 伊藤 耕人

新規会員募集の意味と会員相互の交流のため上記見学会。4月13日(土)、各支部の皆様と新規お試し会員2名の方を含め締め切り人数ギリギリの17名(欠席含まず)のご参加を得て、一路バスは三島スカイウォークへ。現地は、大変な混雑でしたが、「揺らすな揺らすな」の声の中そろりそろりと約400mの吊り橋を往復し富士山、駿河湾、伊豆の山々、の絶景を参加者一同堪能致しました。その後バスは芹沢銈介美術館へ。の美術館は、近代日本を代表する染色家芹沢銈介の作品を展示しており何よりこの建築は、孤高の建築家白井晟一的设计(1981年)によるものです。大好きな建築家で去年6月に白井晟一氏が1955年に計画した「原爆堂」を中心とした展覧会が大盛況のうちに終わりました。改めて白井晟一が対峙した近代への独自の視点が浮かび上がっています。益々この様な再評価の機運が高まることを一ファンとして願ってやみません。



また近接の登呂遺跡では火おこし等の体験もできて参加者一同大いに楽しみました。さて、楽しいことはすべからずアツという間に過ぎてしまいます。帰りのバスでは、和やかな講評会と近況の報告が行われました。

ご参加頂いた皆様有難うございました。



「再生可能エネルギーの普及動向と
 今後の見通し」を拝聴して

横浜支部 石川 高広

令和元年5月15日(水)産業技術総合研究所太陽光発電研究センター主任研究員の櫻井敬一郎先生を講師に招いて太陽光を中心とした再生可能エネルギーの普及動向と今後の見通しについて話を頂く講演会を開催しました。



講演会の様子

産業革命以降、地球規模で温暖化の歯止めがかかりません。温暖化ガスの排出を抑制するには、化石燃料に頼らず再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱他以降再エネとします)を利用していかないと温暖化の抑制が効かない事は明解です。中でも太陽光は無限に得られるエネルギーで、太陽光発電で発電したエネルギーが地域一帯のエネルギー需要に対応できれば、海外から化石エネルギーの輸入を減らすことも可能になります。また送電システムを増強すれば今以上に再エネで作られたエネルギーが全国に行き渡るでしょう。このように経済面においても再エネ普及に向けて設備投資を行い、社会資本を整備する方が、再エネ導入状況が発展し経済成長も確保される、という事が明らかになっています。建築業界でも再エネ利用の観点から、低炭素認定住宅、BELS認定、ZEHなどのエネルギー消費が少ない建物が求められる時代です。太陽光発電を利用して戸別に創エネに取り組み化石エネルギーを少しでも使わない、この発想で建築に取り組みなければならない時代はもう来ています。建築業もエネルギー産業の一環として捉え再エネ利用に係わらないといけないと感じました。

よこはまラーニング 2019

「あらためてみてみよう、横浜三塔」

中支部副支部長 田中 敦史

5月29日(水)に毎年恒例となっているよこはまラーニング2019を「あらためてみてみよう、横浜三塔」というテーマで実施しました。

まずは大正6年に開館した「横浜開港記念会館(ジャックの塔)」に訪れました。関東大震災での損壊・火災からの再建の様子や平成元年のドーム復元と重要文化財への指定等の歴史等をガイドの方から説明されました。

次に昭和3年竣工の「神奈川県庁本庁舎(キングの塔)」へ訪れ、県職員で建築士会会員でもある村島さんにご案内いただきました。昨年度の改修で復元された4階の正庁(せいちょう)は大変な手間を掛け創建当時の様子を復元させたとの事で、その威厳ある雰囲気には圧倒されました。実際に使用されている庁舎としては日本で2番目に古いとの事です。

最後に訪れたのは昭和9年竣工の「横浜税関本関庁舎(クイーンの塔)」で、文字通りの税関の役割やその歴史等について映像を交えご説明いただきました。違法薬物や偽ブランド品の輸入等を水際でせき止める日々の努力が私達の生活を支えている事を痛感しました。1階の資料館には様々な資料が展示されており、学生等も多く訪れていました。

三塔はどれも近代建築史に欠かせないもので、県民として誇りに思える建築だと思いつつ同時に大切に守っていきたくて改めて思いました。

当日は心配されていた雨にも見舞われずとても楽しい見学会となりました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。



キングの塔をバックに集合写真

旧東海道街歩き 小田原宿の巻

福利厚生委員会 三浦 孝昭

城下町小田原宿は、お江戸日本橋から約20里(81.5キロ)江戸方見付け跡と一里塚跡を過ぎ、5月23日小田原宿に入った。

早々に老舗かまぼこ店が立ち並ぶ通りに入り、揚げたてのテンプラを左手に一献、しばし当時をしのんだ。通りを抜けると明治天皇が4回宿泊された行在所碑が残る本陣跡(本陣、脇本陣各4軒、旅籠の数95軒)を左に、右には八棟造りの建屋で日本最古の薬店(ういろう)が室町以来の歴史で道中の常備薬を販売している。特に所有者のご厚意により、旧建物の内部をご案内戴き、薬造りの道具等歴史に触れた。



ういろう

しばらく旧道を歩き上方見付け跡を右に入り、多くの職人が居住した板橋地区にある延命地藏尊を右に、風祭を過ぎると、江戸初期の城主稲葉氏の菩提樹で春日局の墓がある紹太寺を経て、日本最古の上水道といわれる「小田原用水」の早川取水口を見学。

その後、明治経済界の重鎮黒田邸、修復された小田原城を、平塚在住の本会委員の先導で予定通りの行程を踏破しました。



小田原城

◆委員長から一言◆ (村島 正章)

先日総会も無事に終了しましたが、当委員会の今年度事業も動き出しています。なるべく早め早めに研修会・見学会等お知らせしていきたいと思っておりますので、興味ある部会活動に、是非ご参加ください。

■木造塾部会 (山中信悟)

5月31日令和最初の木造塾部会部会研修として平成27年11月28日にご登壇いただいた安井昇先生の「八ヶ岳の秘密基地」へお邪魔してきました。秘密基地の見学及び防耐火関連の法改正の勉強をしてきました。6m×6mの小さな秘密基地ですがさまざまな工夫がほどこされており素敵な空間を造り上げられていました。「つくる」というテーマの中では木材は適材適所に配置されており各所にて必要な性能の根拠が確立されています。下地仕上げにおいても安井先生ならではの防耐火の性能の整理はもちろんですが温熱環境や使う人間が触れる感覚を意識したものとなっていました。「つかう」のテーマにおいては安全、安心、メンテナンスを考慮されており中では太陽光パネル発電に蓄電池を組み合わせ公共電力の接続をしていない状態で1週間程度生活できるなど災害時にも強い建物となっています。小さな空間の中で薪ストーブを採用していますが安井先生の法耐火の知識が詰め込まれ快適なうえに安全が確保されています。「つなぐ」という部分では多くの人々が関わり時間や技術を共有しお互いを高めあえる場所を目指しているそうです。その中の活動として【火育】【木育】【土育】の場所として活用をされています。素晴らしいロケーションの中で素晴らしい体験をさせていただき有意義な研修となりました。



■建築環境部会 (小島健一)

(一社)神奈川県建築士会 主催

感境建築コンペ 2019 予告案内

町と家の「あいだ」を考える

感境建築コンペ2019は建築環境部会が2013年より活動の基本としてきましたテーマ「感境建築」について、より広く多くのアイデアを求めることを目的として開催する運びとなりました。

現在、快適性の指標においては、おもに定量的指標としていろいろとあります。一方で、五感や感情など定性的な面も含めて、人が心地よいと「感じる」境があると考えられます。

そこで、居心地の良さを考えるとき、その「境」は家の内だけではなく外まで考える、広く言えば町と家の「あいだ(間)」までいろいろな場面にある心地よい感境の提案を求めます。

神奈川県内敷地を対象としたアイデア案および過去の実作品による提案を募集します。

審査委員長：伊礼智 (建築家・伊礼智設計室)

審査委員：関本良太 (建築家・リオタデザイン)

審査委員：甲斐徹郎 (株式会社チームネット)

審査委員：吉田貞夫 (神奈川県建築安全協会理事長)

審査委員：金子修司 (神奈川県建築士会会長)

審査委員長には現在各種コンペ審査委員としてご活躍中の伊礼智先生にご多忙中の中お願いすることができました。また、昨年度の木造塾講習会講師をお願いしました関本竜太先生。街づくりでご活躍中の甲斐徹郎先生をお招きしコンペを盛り上げて頂くことになりました。募集要項等詳細は8月1日には公開予定です。「建築士」8月号及び同封の掲示板、建築士会メールマガジンなどをご確認ください。

8月31日(土)午後横浜・波止場会館にて、審査委員によるコンペについての公開シンポジウムの開催も決定しております。応募をお考えの方はぜひご参加ください。公開シンポジウムは別途申し込みをお願いします。

応募受付は9月1日開始10月31日締め切り、11月中旬に1次審査後、12月上旬公開最終審査を予定しています。

神奈川県建築士会 女性委員会 アンケート結果報告

女性委員会委員長 茶谷亜矢

2019年1月末から2月末にかけて「女性委員会の今後のあり方や情報発信、魅力ある参加型イベントの開催に役立てるため」女性会員を対象にアンケートを実施いたしました。アンケートの集計を行いましたのでここにご報告いたします。ご協力頂きました皆様ありがとうございます。（集計：高橋愛枝 記事：竹島比佐子）

アンケート送付対象者380人うち回答者32人

1 年代

20代：回答者なし 30代：6% 40代：13% 50代：47% 60代：22% 70代以上：13%

2 職業

自営業：59% 会社員：5% 公務員：6% その他：9% 休業中：回答者なし

3 職業の業種

設計事務所：63% 建設業：16% 不動産業：3% 官公庁：3% 学校関係者：6%

その他：9% ハウスメーカー、住設メーカー、建材メーカー、休業中：回答者なし

4 女性委員会が企画するイベントについて

参加したことがある：59% 参加したことはない：38% 参加したいが出来ない：0% その他：3%

5 参加できない理由

家庭の事情：29% 仕事の事情：43% 自宅が遠い：0% その他：3%

その他と回答された方の理由

・知人もいないので参加しにくい。（50代） ・子育てと介護。（50代） ・時間に余裕がない。（40代）

6 時間的に余裕ができたなら参加したいと思うか

思う：62% 思わない：5% どちらでもない：33%

7 イベントに参加しやすい曜日、時間帯

平日：44% 土曜日：19% 日曜日：22% 祝日：14%
9時～12時：19% 12時～15時：29% 15時～18時：19% 18時～21時：32%

8 どのようなイベントに興味があるか

建築家・有識者の講演会：15% 建築関連企業の見学：8% 建物見学会：27%
セミナー・勉強会：26% 異業種の交流会：11% メーカー説明会：13%

今現在興味のあること、具体的な希望

- ・リノベーション（用途変更、耐震補強含むような）案件あればぜひ見学したい。（50代）
- ・構造に弱いので、構造のお話大変よかった。現在は相続や税務問題などのご相談、自宅活用、構造で困っている。何か「拠点」があればいいなとも思う。（60代）
- ・興味がある講演会、見学など、体調・時間があれば参加させていただきたい。（70代以上）
- ・建築に関連した女子学生は自分の将来に不安という話を聞く。学生との交流会を小さい規模から始めてはどうか。（70代以上）

9 イベントの案内について

案内を希望：43% 案内はいらぬ：4% HPやFacebookでのご案内を希望：52%

10 女性委員会のFacebookでどのような告知があるとうれしいか

イベント告知：43% イベント開催の報告・感想：25% 女性建築士に役立つトピックス：33%

その他 ・Facebookを使用していない。（50代）

11 その他 ご意見ご要望がありましたらご記入願います

- ・親を看取り子供もいない私は女性向けであることにあまり共感を持つことがないような気がしている。特に否定することもないが却って悲しい気持ちになることが多い。（50代）
- ・他部門活動も含め運営側にはなかなか時間が取れない現状。企画、イベント、勉強会等タイミングがあえば参加したい。（50代）
- ・アンケート結果を報告してほしい（salon他）、他部会や委員会との協力や交流があると良い（参加しやすい）全建女の告知や参加募集も行って欲しい。新入会員や新規合格者はじめ幅広い世代が参加しやすい取り組みを期待（50代）
- ・女性委員会がどのような活動をされているのかあまり知らない。（50代）
- ・Facebookはなんか不安でやれません、ホームページは安心して見られる。そういう方は多いのでは。（50代）
- ・一般の方へ建築士会・女性委員会を宣伝できる活動がしたい（社会貢献—女性建築士としてできる事）（60代）
- ・活動しているのは知っているが情報を入手できていない。時々活動報告を会報？で知るくらい。時間が合えば、また活動場所が近ければやってみたい。（60代）
- ・ランチミティング。横(各部会や委員会)の繋がり、情報共有がもっとできるといい。人の上に人なし、人の下の人なし（60代）
- ・委員会に参加しているメンバーが関心のある（企画）（イベント）（勉強会）をよく検討し、熱い気持ちをもって呼びかけて下さい。それを見て他の会員または会員以外の方々が参加したいという気持ちになるかどうかです。（70代）

アンケートでは多数の貴重なご意見をいただきました。今後の企画の参考にさせていただきます。